

【目次】

1. 重盛親聖氏を講師に第17回政治・社会運動史研究会を開催、3月2日！
2. 友愛会創立を記念する会幹事会を開く、2月28日！
3. 故和田正氏、故高島順子氏、波多野鼎氏の資料寄贈を受ける！
4. 連載「日本労働会館物語」第71回―戦後民主化のリーダー 片山哲 その3―

1. 重盛親聖氏を講師に第17回政治・社会運動史研究会を開催、3月2日！



友愛労働歴史館は重盛親聖氏（労働運動家、民社党地方活動家・地方議員）を招き、3月2日（金）15：00～16：30に友愛労働歴史館研修室で第17回政治・社会運動史研究会を開催しました。テーマは「民社党時代を語る」（共通テーマ）。

重盛親聖氏は1937（昭和12）年生まれの80歳。造船重機労連IHI労組出身。広島県呉地区同盟専従8年。また、民社党広島県連副委員長などを歴任し、呉市会議員を6期務めています。2017年に長年の地方議員としての活動が認められ、旭日雙光章を受章しています。

研究会で重盛親聖氏は1時間余に亘り、①自らの生い立ちと西尾末廣との出会い、②民社党の活動で学んだことなどについて報告し、その後、参加者との間で意見交換・質疑を行いました。

2. 友愛会創立を記念する幹事会を開く、2月28日！



1912（大正元）年8月1日に鈴木文治により創立された友愛会（現在の連合）。その友愛会を顕彰する記念式典を毎年8月1日に開催している友愛会創立を記念する会（高木剛会長）は、2月28日に2018年第1回幹事会を開きました。幹事会は、①本年8月1日（水）正午から友愛会創立記念パーティーを開催すること、②これに先立ち友愛会を顕彰する報告会を同日10：30から開催すること、などを確認しました。友愛会創立記念パーティーは8月1日12：00～14：00の予定。

記念式典に先立ち毎年、開催している友愛会を顕彰する報告会は、総同盟会長・衆議院議長などを務めた労働運動家・松岡駒吉を取り上げます。これは7月より開催予定の企画展「松岡駒吉一戦前期、一筋に労働者の利益を守った男」（2018.07.06～12.21）と連動させるためです。

3. 故和田正氏、故高島順子氏、波多野鼎氏の資料寄贈を受ける！

友愛労働歴史館は2月5日にUAゼンセン東京都支部を介し、故和田正氏（ゼンセン同盟東京都支部長、連合東京会長などを歴任）の資料の寄贈を受けました。また同月、連合副事務局長などを歴任し、労働運動・婦人運動で活躍した故高島（塩本）順子氏の資料寄贈を、複数回に亘って受けました。さらに2月27日には片山内閣で農林大臣を務めた波多野鼎氏（経済学者、社会思想研究者）関連資料の寄贈を受けました。これは当歴史館がHPで「波多野鼎氏の資料を探しています」と掲載したのを読んだ波多野鼎氏の関係者からの連絡により実現したものです。

4. 連載「日本労働会館物語」第71回—戦後民主化のリーダー 片山哲 その3—

今回の「日本労働会館物語」の「戦後民主化のリーダー 片山哲 その3」では、クリスチャン、弁護士、政治家として生きた片山哲が、政党人として、また片山内閣首相として「戦後日本の民主化に果たした役割」について記述します。



片山哲について楠精一郎・高崎経済大学教授は、『大政翼賛会に抗した40人』（2006年刊行）の「国家社会主義への抵抗 片山哲」で、中野正剛が率いる国家社会主義政党・東方会との合同問題や斎藤隆夫代議士除名問題（昭和15年3月）に言及し、戦前の国家社会主義に抵抗した片山哲や社会民衆党（写真は社会民衆党・民衆政治学校）について、「思想的なブレが少なかった」と記述しています。また、片山内閣が果たした民主化政策について同書「片山内閣は失敗か 片山哲」で、片山内閣が果たした役割について記述し、「民主化を積極的に推進した」としています。

＜片山内閣が果たした役割（楠精一郎・高崎経済大学教授）＞

- ①新憲法に基づく内務省の解体
- ②警察制度の分権・民主化の方向で改革
- ③労働者福祉のための労働省の設置
- ④国家公務員法の制定、公務員の「天皇の官吏」から「全体の奉仕者」へ
- ⑤戦前の家族制度を否定した改正民法の制定
- ⑥待合政治をやめ、閣僚としての給料をもらわずに議員歳費だけにした
- ⑦首相経験者などへの前官礼遇の廃止



また、自民党の福田赳夫元首相は、片山内閣の評価について次のように記述しています。「片山哲という方が、あの混乱期の昭和22～23年、日本の歴史の中でなされた功績というもの、これは本当に高く評価しても、高く評価しすぎるということはない」。

福永文夫・獨協大学教授は、「民主化を総司令部によって、『上から』与えられたものとしてだけではなく、積極的担い手として推進した役割は記憶されていて」と述べています。

友愛労働歴史館研究員で元民社党教宣局長、元尚美学園大学教授の梅澤昇平氏は、「私は高潔な人柄、民主社会主義のリーダー、政界浄化、婦人解放などで高く評価します。しかし総理大臣としては、決断力に欠けていたと思います。占領下、連立という厳しい環境の下で、『民主化』のため、よくやったと思います。」と述べています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール yuairedorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedorekishikan.com>

権一館から124年、友愛会から106年